

同じ作品でもその時どきによって表情が違って見えることがあります。
何回か見ているうちに自分の感覚と共鳴することもあります。
だから美術館は面白い。

展覧会のお知らせ

常設展 小川原脩「自伝風な展覧会 - アジアの大地 - 」開催中

中国桂林、チベット、ラダック、そしてインドへの旅で出会った風物は、小川原が生まれ育った倶知安にかつてあったような情景と重なり、情感豊かな作品を次々に生み出しました。

それぞれの土地で自然と一体となった人びとを描いた作品を展示しております。

企画展「くっちゃんart2011」開催中

羊蹄山麓に住み、ゆかりのある作家たちの多彩で独創的な作品を集めた展覧会です。今回は新たな作家たちも加わり、さらに海外からの出品もあり、見ごたえのある賑やかな展覧会となりました。

会期：2月9日(水)～3月27日(日)

風土館から「風土館講座のおさそい」

長年にわたって尻別川のイトウを保護されてこられた「オビラメの会」の専門家のお二人にイトウについて話題を提供して貰います。関心のある方はぜひご参加下さい。聴講料は無料です。

なお詳細は風土館にお問い合わせ下さい。

日 時 平成23年2月5日(土)

午後3時～午後4時半(質疑応答含む)

演 題 1 川村 洋司さん 絶滅危惧種イトウの保護対策
2 大村明宏武さん 尻別川のイトウの自然繁殖

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館

☎ 21-4141 FAX 21-4142

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/town/somoa/index.jsp

倶知安風土館

☎ 22-6631 FAX 22-6632

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/town/hoodokan/hoodokan.jsp

開館時間は9時～17時(入館は16時半)
2月の休館日 1,7,8,15,22日

木田金次郎美術館 ☎ 0135-63-2221

秋から冬を迎える展覧会

「出会いから100年 木田金次郎と有島武郎」開催中
第16回ふるさとこども美術展
2月5日(土)～2月20日(日)

西村計雄記念美術館 ☎ 0135-72-2525

没後10年 西村計雄 - 少年の旅路 - 開催中
トライアート「油彩画」に挑戦!
2月12日、19日 10時～12時 参加費 600円
バレンタインサービス
2月13日来館者にチョコレートをサービス

荒井記念美術館 ☎ 0135-63-1111

現在冬の休館中

海と山と田園と - ミュージアムロード情報 -

尻別川のイトウ

昨年の春に尻別川でイトウの自然産卵が確認された。実に画期的なことだ。新聞でも大きく取り扱われた。さて、この尻別川のイトウも言うべきイトウの自然繁殖がどうしてそこまで大きな話題になるのか。イトウの素顔の面から探ってみよう。

い傾向がある。近年の遺伝子解析は、石狩低地帯の東西で北海道のイトウが大きく二分されることを示した。このような差を地理的な変異と呼ぶが、アイヌの区別は的を得ていたと言えるかも知れない。

イトウの仲間にはサケやマスの中で原始的な特徴を多く残すグループで、ヨーロッパからアジアにかけて4種が分布する。その中でイトウ(という種)はサハリン、ロシア沿海州、千島、東北地方以北の日本に分布していたが、現在国内で生息が確認されているのは北海道だけである。

北海道のイトウには二つのタイプが存在することが知られている。もともとアイヌはこれらをチライとオヒライと呼び分けていたし、体型を見ても札幌から苫小牧に至る石狩低地帯の東側のイトウは細身であるのに対し、西側のイトウは頑丈で明らかに頭部が大き

かつては道南や東北地方にも分布していたが、石狩低地帯以西で今でも棲み続けているのは尻別川だけで、これらの頑丈で頭部が大きいイトウの唯一の生き残りである可能性がある。尻別川のイトウは独自性が高いことは間違いなく、だからこそ自然下での繁殖の確認は大きな前進であり、今後はその独自性を壊さないように配慮し、産卵を含めた繁殖活動を邪魔しないことがカギとなる。まずは地道に保護に努力を傾けてくれた方がたと共に自然下の繁殖確認を喜びたい。

